

赤 星 山



長津小学校の南に校歌にも歌われた標高1453mの赤星山がある。
長津小学校では毎年5月に6年生が親子登山をしている。5月の連休にはカタクリの花が咲き、冬には、きれいな雪景色も楽しむことができる。四季折々の風景を見せてくれる。

赤星山名前の由来（その1）

養老4年（720年）伊予の国司 越智玉澄が大山祇神をお迎えした時、赤星山の北側の土居の町の沖で激しい風が吹き、舟が転覆しそうになった。そこで、赤星山の東側にある豊受山に向かって祈ると、豊受山の西にある山の山頂に火の玉が現れ、赤い星のように海を照らすと、激しい風が収まった。それ以来赤い星の現れた山を赤星山、海を火映灘（現在は燧灘）と呼ぶようになった。

赤星山名前の由来（その2）

夏にさそり座の一等星アンタレス（赤い星）が赤星山の山頂に輝くことから、赤星山と呼ぶようになった。